

JAJFTMA

JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

平成29年1月31日 発行 第65号

2017年 日釣会長挨拶

時代は変わっても 釣りとは地球の未来へ 変わらない自然の豊かさを

一般社団法人 日本釣用品工業会
会長 島野 容三

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

旧年中は（一社）日本釣用品工業会（日釣工）の活動に、多大なるご支援・ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。本年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内外ともに良くも悪くも衝撃の走った一年であった感があります。日銀の打ち出したマイナス金利政策は、それまでの量的・質的金融緩和とも相まって、少なくとも円安・株高を演出し、企業収益や雇用情勢に改善をもたらしました。しかしながら、原油価格の下落や中国の景気減速、金融市場を混乱に陥れたイギリスのEU離脱宣言など、世界経済の先行き不透明感からその勢いも鈍化し、デフレ脱却もなかなか実現には至っておりません。消費税引き上げも延期が表明され、アベノミクスもいよいよ正念場を迎えたといったところです。一方で、オリンピック史上最多のメダルを獲得した日本選手団の活躍や、3年連続となる日本人のノーベル賞受賞、訪日観光客の2000万人突破など、心強いニュースも相次ぎました。この波に乗って、2017年をますます希望あふれる一年にしていきたいものです。

私ども日釣工は、市場の活性化とともに釣り環境の整備及び社会的貢献についても重要な責務とし、つり環境ビジョンコンセプトに基づく“持続可能な自然環境の構築”実現をめざした「LOVE BLUE事業」を展開しております。2012年以来「清掃」「放流」「釣り場拡大」を3つの優先事業として活動してまいりましたが、賛同いただく企業も現在では約200社を数え、全国各地における水中クリーンアップ活動や小学校での環境教育など、地域に寄り添った地道な活動が着実な成果を上げてきております。そうした中で、水中清掃を実施してきた茨城県の汽水湖・潤沼（ひぬま）の「ラムサール条約湿地」登録（2015年）、また昨年のG7伊勢志摩サミットでの「おもてなし大作戦」参加、あるいは環境省主催のエコライフ・フェアへの出展など、国際社会的にも大きな意義を持つ活動となったことを実感している次第です。

「放流事業」につきましては、昨年も専門機関との連携により、東京湾口3カ所にてマダイ種苗20万尾の放流を実施いたしました。受精卵からふ化させて放流に適したサイズになるまで育成し、エサや育成容器の密度など工夫を重ねながら放流の実施へ。その後の効果測定にも取り組んでおり、調査地域では30cmにも育った成魚の水揚げが報告されています。また、地球環境基金との協働により水辺の環境保全活動を行う諸団体を支援する「つり環境ビジョン助成」もますます広がりを見せました。清掃活動や水辺の生態観察、データ収集など、全国各地さまざま形で実を結んでいます。来年度からは名称を「LOVE BLUE助成」へと変更し、LOVE BLUEにこめた想いをさらに具現化すべく取り組んでまいります。

こうした、地球の未来へ自然環境を維持していく活動にご理解をいただくとともに、全商品に添付をお願いしております「環境・美化マーク」につきましても、釣具店さまには引き続きご協力を賜りお力添えいただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

さて、本年も1月20日（金）～22日（日）の3日間、みなとみらい・パシフィコ横浜にて『ジャパンフィッシングショー2017』を開催いたします。出展予定は昨年を上回る164社・697小間とスケールアップ。「ディープな魅力、ライブな感動。」をキャッチフレーズに、ワクワクするような生の体験・出会い・感動を通して、一年でもっとも早く釣りの面白さ、楽しさを発信してまいります。また多くの業者さまに出展していただきやすいよう、共同出展の「シェアリング・ブース」やジャンルごとに魅力を訴求する「釣種エリア」の充実、さらには自社ブースでのプロモーショングッズ販売など、ご来場の皆さまにもさらに満足いただけるショーになるものと確信しております。コアな釣りファンはもちろん、ライトユーザーにも幅広く魅力をお伝えできるよう、公式ホームページの充実も図ってまいります。釣具店さまにおかれましても、こうした趣旨をご理解のうえ広くお知らせいただき、多数の来場につなげることでお店の活性化にお役立ていただければと存じます。

日釣工は今年も、釣りレジャーの地位向上のため、社会と共生できる釣りを目指し、環境に配慮した道具づくりをはじめとして、国民生活を豊かにする釣りの創造に積極的に取り組んでまいります。本年も変わらぬご厚誼を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第17回理事会報告

去る、平成28年11月24日（木）に、日本フィッシング会館8階会議室において第17回理事会が開催されましたのでご報告いたします。

第1号議案各委員長より委員会活動の報告があり承認されました。

(1) LOVEBLUE委員会

参加総数及び新規企業勧誘進捗状況、環境・美化シール販売収入&商標使用料収入の推移、海外での商標登録状況、つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVEBLUEアンケートご協力・バナー活用のお願い実施について、(公財)日本釣振興会での事業実施状況、日釣工での事業実施状況、平成28年度収支見込みと平成29年度収支予算(案)について、

(2) JAF実行委員会

JAF2017出展応募状況、動員関係、来年度以降に向けての検討課題。

(3) 規格・安全委員会

釣糸WGではJAFS基準遵守企業の勧誘について、ライフジャケット安全・啓発WGではレジャー用ライフジャケットの性能基準について、環境eマーク事業では、中国では商標が取得されていない件、3月に商標権の更新時期を迎える件、平成29年度予算、JAF2017の展示について。

(4) 市場調査委員会

第20回釣用品の国内需要動向調査について、回答状況の報告、中古市場の規模推計、インターネット市場の規模推計、17商品分野別市場規模推計値と現時点での集計値、市場規模数値の集計値及び予測値、市況の状況と今後の取組。

(5) JAF動員特別委員会

JAF2017前売りチケットの販売強化、来場者数目標達成に向けての取組、来場者誘引策、来年度に向けた課題、「釣り人口拡大検討を通してのジャパンフィッシングショーのありかた」について。

第2号議案 企画プロジェクト活動報告があり承認されました。

「あした、釣りいこ！通信」の進捗状況、日釣工のあるべき姿について。

第3号議案 平成28年度収支計算書(4~10月実績)の報告があり承認されました。

第4号議案 平成28年度中間決算監査の報告があり承認されました。

第5号議案 入・退会会員に関して、今回は該当案件がない報告があり承認されました。

第6号議案 (一社)日本釣用品工業会規則・規定改正に関する報告があり承認されました。

第7号議案 (一社)日本釣用品工業会名義使用許諾申請に関する報告があり承認されました。

第8号議案 その他報告承認事項について以下の報告があり承認されました。

(1) 日本フィッシング会館長期修繕計画に関する件

(2) 平成29年度会議開催日程(案)に関する件

(3) JAF2017開催に当たってのお願い

(4) その他

以上

第20回「釣用品の国内需要動向調査報告書」発刊のご案内

当工業会は、2017年2月に第20回目となる「釣用品国内需要動向調査」報告書を発刊します。「釣用品国内需要動向調査」は、釣用品メーカーを対象に国内釣用品の出荷量を調査、その回答結果を元にメーカー出荷ベースの釣用品市場規模を算出、更に商品分野別の動向や輸出入統計データ等を掲載した資料です。皆様の商品戦略、営業政策など各種戦略立案のための基礎データとしてご活用頂ければ幸いです。今回は前回(第19回)に引き続き「ソルトルアー市場の詳細分析」に加えて「トレンド調査(ワカサギ釣り)」の品目別出荷金額の単純集計値を掲載しております。

【調査結果の要約】

2015年の釣用品国内出荷規模は対前年比103.0%の1,275億3,000万円の成長となった。また、2016年の釣用品国内出荷規模(見込)は対前年比102.4%と引き続きプラス成長の見込となりました。

【釣用品国内出荷規模・（前年比）】

(単位:百万円、%)

	2014年(平成26年)			2015年(平成27年)			2016年(平成28年)見込			2017年(平成29年)予測		
	国内出荷規模	構成比	前年比	国内出荷規模	構成比	前年比	国内出荷規模	構成比	前年比	国内出荷規模	構成比	前年比
1.釣竿	28,300	22.9	100.7	29,810	23.4	105.3	30,090	23.1	100.9	30,990	23.0	103.0
2.釣用リール	25,460	20.6	108.3	26,080	20.5	102.4	28,090	21.5	107.7	29,160	21.7	103.8
3.釣針	8,130	6.6	102.1	8,420	6.6	103.6	8,410	6.4	99.9	8,560	6.4	101.8
4.釣糸	6,700	5.4	94.5	6,670	5.2	99.6	6,710	5.1	100.6	7,040	5.2	104.9
5.ウキ	1,280	1.0	97.0	1,300	1.0	101.6	1,310	1.0	100.8	1,320	1.0	100.8
6.釣服	5,560	4.5	104.1	5,450	4.3	98.0	5,630	4.3	103.3	5,610	4.2	99.6
7.バッグ類	2,090	1.7	102.0	2,200	1.7	105.3	2,350	1.8	106.8	2,410	1.8	102.6
8.ケース類	1,150	0.9	105.5	1,160	0.9	100.9	1,170	0.9	100.9	1,220	0.9	104.3
9.網製品	530	0.4	100.0	520	0.4	98.1	540	0.4	103.8	550	0.4	101.9
10.金属小物類	3,840	3.1	96.0	4,060	3.2	105.7	4,170	3.2	102.7	4,270	3.2	102.4
11.履物	2,890	2.3	95.1	3,050	2.4	105.5	3,100	2.4	101.6	3,100	2.3	100.0
12.加工餌	4,130	3.3	103.0	4,100	3.2	99.3	3,940	3.0	96.1	3,990	3.0	101.3
13.生餌	6,800	5.5	99.1	6,750	5.3	99.3	6,410	4.9	95.0	6,490	4.8	101.2
14.擬似餌	18,500	14.9	102.9	19,040	14.9	102.9	19,290	14.8	101.3	20,420	15.2	105.9
15.ボート・カヌー	640	0.5	94.1	580	0.5	90.6	600	0.5	103.4	610	0.5	101.7
16.クーラー	2,260	1.8	106.6	2,360	1.9	104.4	2,590	2.0	109.7	2,610	1.9	100.8
17.釣関連用品	5,590	4.5	103.3	5,980	4.7	107.0	6,140	4.7	102.7	6,120	4.6	99.7
合計	123,850	100.0	102.3	127,530	100.0	103.0	130,540	100.0	102.4	134,470	100.0	103.0

※クーラーの規模を過去に遡って修正している。

規格・安全委員会からのお知らせ

当会の取り組む日本小型船舶検査機構の性能鑑定適合品としてのライフジャケットの普及啓発・周知広報に関して表敬訪問を実施しました。

ジャパンフィッシングショー2017開催まで2週間と迫った1月6日（金）、当会 島野容三 会長及び規格・安全委員会 ライフジャケット安全・啓発ワーキンググループ 高階才文 リーダーらが、日本小型船舶検査機構の性能鑑定適合品としてのライフジャケットの普及啓発、周知広報の取り組みに関して、これまでの経緯と今後の取り組みについての報告と協力の依頼のため、海上保安庁 中島敏 長官及び国土交通省海事局 羽尾一郎 局長を表敬訪問しました。



写真中央 中島敏 海上保安庁長官



写真中央 羽尾一郎 国土交通省海事局長

中島長官からは、「ぜひこの取り組みを頑張って進めてください」との激励の言葉を頂き、羽尾局長からは、ライフジャケット普及啓発、着用推進に関して感謝が伝えられ、「良い製品をぜひ普及させてほしい」と業界を挙げて取り組む普及啓発、周知広報活動への高い評価がありました。



握手をする中島長官と島野会長



国土交通省 海事局長室での懇談

当会は、今後とも国土交通省型式承認品のライフジャケットと、日本小型船舶検査機構の性能鑑定適合品としてのレジャー用ライフジャケット（固型式）の普及啓発、周知広報を進めてまいります。



業界統一タグ



CSマーク

CSマーク(JCI)による性能鑑定済みマークが本体に表示された「レジャー用ライフジャケット(固型式)」は日本小型船舶検査機構(JAFTMA)の性能鑑定を受け、一定の基準(寸法、材質、水よりの性能等)を満たしていることが確認されている「レジャー用ライフジャケット(固型式)」です。

日本小型船舶検査機構
認証マーク (CSマーク)

レジャー用ライフジャケット（固型式）使用環境ガイドラインHP
<http://www.jaftma.or.jp/standard/lj/index.html>



つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業
最新の活動報告



写真中央 小林正明 環境省事務次官



環境省 事務次官室での懇談

1月20日（金）LOVE BLUE事業が取り組む社会貢献活動への理解の輪を政府側へ広げるため、これまで積み重ねて来た、全国での実績などの報告や今後の取り組みなどのご説明に、当会 島野容三 会長、大村一仁 副会長、小島忠雄 LOVE BLUE委員長らが、京都大学名誉教授 松下和夫 氏（当会理事）と共に、環境省 小林正明 事務次官へ表敬訪問を行いました。

小林事務次官からは、「今また温暖化や世界中で水の危機が起こるのではといわれる中、世界の中でも水の豊かな日本で気候の変動へ耐えて行けるような取り組みを関係省庁へ呼びかけながらご協力を頂いているところです。その意味で、水への関心を高める取り組みという観点でも、皆様の取り組まれている社会貢献事業、大変素晴らしいと思います。今後ともぜひ頑張ってください。」などのお話がありました。

1月 JAF2017にて、ブースを出展しました



LOVE BLUEブース全景



水中クリーンアップ活動を行うプロダイバーの作業の様子

水中クリーンアップ活動

10月～12月の実績

10月3日～7日	愛知県犬山市入鹿池
10月14日～18日	滋賀県彦根市宇曾川漁港
10月21日～25日	滋賀県東近江市出在家舟溜
10月28日～11月1日	滋賀県近江八幡市沖之島漁港
11月4日～7日	滋賀県近江八幡市牧舟溜
11月8日～11日	滋賀県近江八幡市野村舟溜
11月15日～19日	神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎漁港
11月22日～26日	神奈川県平塚市平塚漁港 本港
11月29日～12月3日	千葉県南房総市富浦漁港
12月6日～10日	神奈川県藤沢市片瀬漁港
平成28年4月から12月までに134日実施(4年間累計469日実施)	



入鹿池



片瀬漁港

1月 地球環境基金企業協働プロジェクト つり環境ビジョン助成

JAF2017メインステージにて、助成団体の代表の方に活動報告を実施していただきました。



1月20日（金）15：40～
岐阜県 NPOいびがわみずみずエコ
ステーション 理事兼事務局長
岩間 誠さん

発表テーマ：西濃地域における揖
斐川流域クリーン大作戦・アースデイいびがわ、揖斐郡
地域におけるいび地域環境塾

内容：助成を受けた今年度最大の活動として、揖斐川のゴミ
拾いは、2,800人の方に参加してもらえました。子供に夢を
与える様な活動と地域の皆さんが自然、山、川、里山等を
大切に思って頂くような活動をしていきたいとの発表でした。



1月21日（土）15：40～
22日（日）15：45～

岡山県 NPOグリーンパートナー
おかやま 理事長 藤原 瑠美子さん
発表テーマ：「世界の宝石～瀬戸

内海」を磨く～山、川、海そして人をつないで～
内容：助成によりシンポジウムの開催や海底ゴミを回収
することが出来ました。ゴミに関心の無い人に情報を発
信して、課題を共有することで、ゴミをなくすように皆
さんの意識を変えていきたいとの発表でした。

ロイヤルアングラータ賞 2017

ロイヤルアングラータ賞は、様々な分野でご活躍されている方々の中から日頃フィッシングに対し造詣が深く、フィッシングを趣味とし愛好されている方及び釣り文化の発展に貢献されている方に対し「ロイヤルアングラータ」として表彰させていただく企画です。今年度は、一般社団法人 日本経済団体連合会 会長榊原 定征様が受賞されました。



釣り歴：

伊勢湾を臨む愛知県の知多半島で育った私は、子供の頃から釣りに明け暮れていた。釣り竿、リールも手製、餌のゴカイも自分で捕った。海の突堤からキス、ハゼ、ゼンメ（ヒイラギ）、アイナメなどがよく釣れた。東京に来てからは、東京湾でのシーバス釣りに熱中した。当時住んでいた家の前の隅田川でよくテクトロをした。最近では中々釣り糸を垂れる時間は取れないが、友人に誘われて年に一度鳴門海峡での真鯛釣りを楽しんでいる。

釣りの魅力等一言：

東京湾でのシーバス釣りを通じて、釣りが極めてサイエンティフィックで戦略的であることを実感した。シーバス釣りの醍醐味は、ガツンと竿から腕に響く手応えと、必死で逃げようと岩陰に潜ったり、空中でジャンプするシーバスとのファイティング。実は釣る前のシーバスとの知恵比べが面白い。東京湾のシーバスは百戦錬磨で非常に賢く、季節や時間帯、水流の強弱、水深などの違いで潜んでいる深さや場所を変える。彼らの気分に合わせてルアーの色や形や大きさを換える。まさに知恵比べの連続。彼らに勝つには、生態や習性を良く研究し、正しく理解しておかなければならない。ビジネスにも通ずる教訓を、東京湾のシーバスは教えてくれる。



JAPAN FISHING SHOW

ジャパンフィッシングショー 2017 みなとみらい・パシフィコ横浜

ディープな魅力、ライブな感動。

ジャパンフィッシングショー2017は、経済産業省、神奈川県、横浜市、(公財)日本釣振興会、全国釣竿公正取引協議会の後援のもと横浜・みなとみらいにあるパシフィコ横浜で海外企業を含む172社(団体)706小間の出展を得て1月20日(金)から22日(日)までの3日間にわたり開催され、38,635名(前年比101.3%)の来場をいただきました。オープニングセレモニーは初日9時30分よりメインステージで行なわれ、主催者を代表して島野容三会長が開会の挨拶を行い、松野頼久衆議院議員、中内重則経済産業省 製造産業局生活製品課企画官らが祝辞を述べられ、その後、公益財団法人日本釣振興会の高宮俊諦会長、大阪釣具協同組合の橋本俊哉理事長、Mr.Mike Nussman President/CEO of ASA、Ms.Janet Doyle General Manager of EFTTAを交えてテープカットが行われました。

「ディープな魅力、ライブな感動」をテーマに、ワクワクするような生の体験、出会い、感動を訴求してまいりますが、多くの釣りファンが、熱心に商品を見て出展社の説明を聞き、プロとの出会いに感動している場面が印象的でした。また、キャスト体験コーナー、ファイトフィッシングなどの体験コーナーや、ステージイベントのメインステージで開催したTheMeijinトークショー、アングラータズアイドル最終選考会など、このショーに来場しなければ体感できない釣りの魅力を楽しんでいました。





会場全体 (パシフィコ横浜提供)



キャストイング体験コーナー



横浜市民招待 (水産総合研究センターのゆるキャラで、`あんじい、クンと海上保安庁のゆるキャラ `うみまる、クン)



フライフィッシング体験コーナー



マス釣り体験コーナー



お魚体験コーナー



AEDの使い方講習



釣りの安全セミナーライフジャケット講習



釣り環境ビジョン助成活動報告



TheMeijinトークショー



オリジナルグッズ販売コーナー



釣りピットライブ

アングラーズアイドル

第8代アングラーズアイドルは、波木井桃子(はきいももこ)さんが、爽やかで、釣り姿のかわいさが印象に残り、自己紹介など話し方がわかりやすく釣りへの情熱が強く伝わってきたことから選出されました。今後、アングラーズアイドルとして、釣りの魅力や釣りの楽しさを象徴する存在として一年間活躍してくれることを期待しています。



第8代アングラーズアイドル波木井桃子さんに決まりました。

ジャパンフィッシングショー2018開催日程

会 期：2018年1月19日(金)～21日(日)

会 場：パシフィコ横浜 展示ホール (神奈川県横浜市西区1-1-1)



事務局だより

■新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年も事務局職員一同各事業の推進と当工業会の活性化を図ってまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

JAFTMA

JAPAN FISHING TACKLE MANUFACTURERS ASSOCIATION

一般社団法人 日本釣用品工業会

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館5F

TEL 03 (3555) 0101 (代表) FAX 03 (5542) 2929

<http://www.jaftma.or.jp/>